授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第 2642 号

Prevalence and Prognostic Relevance of Isolated Tubular Dysfunction in Patients With Acute Heart Failure

急性心不全患者における孤立性尿細管障害の有病率および予後との関連性

堂垂 大志（どうたれ たいし）

博士（医学）

| 論文審査結果の要旨 |
| --- |
| 本論文は、急性心不全患者における糸球体機能障害または尿細管機能障害の有病率と予後との関連性、および特に孤立性の尿細管機能障害についての情報を明らかにした臨床的に意義ある論文である。心腎連関と謳われるように心不全と腎機能障害の密接な関係性の理解は重要であり、近年の研究により特に尿細管機能障害の臨床的意義が明らかになってきている。尿細管機能障害は、臨床の場において尿サンプルを用いて簡便に評価することができる。本論文ではこうした背景の元、急性心不全患者において糸球体機能障害と尿細管機能障害の有病率や併存、予後との関連に関して検証した結果、糸球体機能障害単独群、尿細管機能障害単独群、糸球体機能障害＋尿細管機能障害併存群でそれぞれ高い死亡率が観察された（log-rank P<0.001）。同様に、修正 Cox 回帰分析では、糸球体機能障害単独群、尿細管機能障害単独群、糸球体機能障害＋尿細管機能障害併存群で、死亡リスクが有意に高いことが明らかになった。特に、これまであまり注目されていなかった尿細管機能障害単独群は急性心不全患者の多くの割合で観察され、独立して死亡率の高さと関連していた。(HR 2.43、95%CI 1.04-5.70、p=0.041）こうした結果から、急性心不全患者に尿細管機能障害のスクリーニングを行うことでハイリスク症例を同定することが重要であり、臨床的意義のあるデータと考える。<br>よって、本論文は博士（医学）の学位を授与するに値するものと判定した。 |